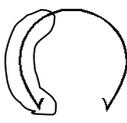
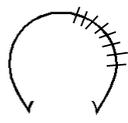
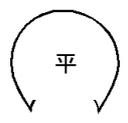
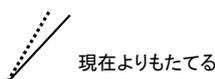
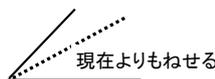


第70回 全国装蹄競技大会 装蹄判断模範解答

肢 別	前 肢				後 肢							
肢 勢	前望	仮性内向肢勢				後望	狭踏兼外向肢勢					
	側望	後踏肢勢 (集合肢勢)				側望	前踏肢勢					
蹄 形	左	外向蹄 不同蹄		サイズ: 右 < 左 角度: 右 > 左	左	外向蹄						
	右	外向蹄			右	外向蹄						
歩 様	外弧歩様		先着部位 左 右	左	外蹄側		内弧歩様		先着部位 左 右	左	外蹄尖～側	
				右	内蹄尖～内蹄側					右	外蹄側	
疾 病 損 徴	左	球節(球腱)軟腫、腱上部腫脹、蹄壁欠損(内蹄側)				左	飛節軟腫、飛端腫、飛端外傷痕、球節(球腱)軟腫、負縁裂(内蹄側)、長趾伸筋腱腫脹、皮膚病					
	右	球節(球腱)軟腫、拳踵・狭窄、追突痕(内蹄踵)、蹄壁欠損(外蹄側)				右	飛節軟腫、飛端腫、飛端外傷痕、球節(球腱)軟腫、長趾伸筋腱腫脹、皮膚病					
多 削 部 位	多削部位		蹄角度の適否		多削部位		蹄角度の適否					
	左	外	内	左	外	内	左	外				
	右	内	外	右	内	外	右	内				
装 蹄 の 方 針	<p>●左右蹄いずれも球節(球腱)軟腫および不同蹄に、左蹄では腱上部腫脹に留意し内蹄尖から外側負面まで多削し、蹄を起こすと共に内外バランスを整える。また、右蹄では拳踵・狭踵および追突痕に留意し外蹄側から外蹄踵を多削し、内外バランスを整え、上弯を多めに設け反回の良いを図る。</p> <p>●右蹄では、拳踵狭窄蹄に対処するため、蹄支角を削開し狭窄部の剩縁を多めに設ける。</p> <p>●左右蹄の蹄壁欠損部は、鑢を用いて欠損部を滑らかにし悪化予防に努める。</p>				<p>●飛節軟腫・飛節端・球節(球腱)軟腫・長趾伸筋腱腫脹に留意し、蹄尖負面を多削し、蹄角度の増大に努めるとともに、外蹄側を多削して内外蹄負面のバランスの調整に心掛ける。</p> <p>●左蹄では負面裂部を削除し、鑢削修正を行い裂部の拡大を防止する。</p> <p>●右蹄では、右前蹄追突痕に留意し鉄唇の焼き込みを強めに行うと共に、鉄頭部外縁を下狭に整える(もしくは側鉄唇蹄鉄を装着する)。</p>							
	<p>① 多削部位は原則として下記の記載例に基づいて表現すること。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  一側多削 </div> <div style="text-align: center;">  蹄尖多削 </div> <div style="text-align: center;">  両蹄踵多削 </div> <div style="text-align: center;">  一側蹄踵多削 </div> <div style="text-align: center;">  蹄壁鑢削 </div> <div style="text-align: center;">  現状維持 </div> </div> <p>② 蹄角度の適否は下記の記載例に基づいて表現すること。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  現在よりもたてる </div> <div style="text-align: center;">  現在よりもねせる </div> <div style="text-align: center;">  現状維持 </div> </div> <p>③ 「装蹄の方針」欄には、この馬の判断結果を総合して、重点事項を記載する。箇条書きを基本とする。</p>											